

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成19年9月(2007年)No.501

第47回 OMC映像フェスティバル

今年は70%を越すハイビジョン作品を発表

— 特に明るい投影機の登場に話題集中か —

今年のOMC映像祭は10月7日(日曜日)13時(開場12時30分)より大阪市立中央会館大ホールにて開催されますが、先頃の幹事会でプログラム編成会議が行われた結果、2頁に示す18作品が選定されました。選に漏れた作品の中にも良い作品が多くありましたが、全上映時間の枠からはみ出してしまい、残念ながら見送らざるを得ませんでした。特筆すべきは18作品のうち3本が従来からの4対3、2本がワイドの他は、13本がハイビジョンという割合で、全国の映像発表会を見ましても初めてことではないかと思えます。問題は作品の内容ですが、例年に劣らず良い作品が揃っているのではないかと自負しております。

■ 1万ルーメンの驚異的な明るさのプロジェクターを使用

今回は黒田敏彦会員の特別なお計らいにより、1万ルーメンの明るさという業務用プロジェクターをお借りすることが出来ました。このほど同会場にてテストしましたところ、その明るさに皆驚いておりました。やゝ露出オーバー気味の作品は白くなり過ぎて逆に心配になりましたが、4灯点灯を3灯とか2灯に減らすことも自在のようです。前田世話役によると、玄光社に事前PRしたところ、ビデオサロンから当日取材に来られる予定とか。日本一明るい映写会に大きな話題を提供することでしょう。

■ 観客動員にご協力ください。

OMC映像フェスティバルはお陰様にて毎年期待以上の観客数があり、作品内容レベルに一定の評価を得ている成果だと感謝しておりますが、今年もご家族ご友人等お誘い合わせの上ご来場ください。

9例会のお知らせ

9月例会は第4土曜22日午後6時から、難波市民学習センター(JR難波駅上OCATビル4階)で開催します。ようやく涼しくなってきました。大勢の会員さんの参加をお待ちしています。

第47回OMC映像フェスティバル プログラム

1. ぶらり中山道これより木曾路 (W)
森口吉正 9分
2. 石見銀山の里 (W)
紙本 勝 11分
3. 催太鼓 (HDV)
増池 茂 7分
4. 般若はん (HDV)
宮崎紀代子 9分
5. うつぼぱーく (HDV)
江村一郎 6分
6. くも合戦 (HDV)
山口幸代 9分
7. 蛇穴 (さらぎ) の汁かけ祭 (HDV)
河合源七郎 12分
8. 天までとどけこの祈り (HDV)
山本正夢 9分
9. 古都燈炎 (HDV)
黒田敏彦 14分
——休憩——
10. 八幡堀の春
玉井 勻 8分
11. 山鹿灯籠
吉岡貞夫 10分
12. 垂井・祭りの頃 (撮影会作品)
合原一夫 13分
13. Flying high (HDV)
西村光雄 10分
14. 雪の日も雨の日も (HDV)
進藤信男 14分
15. 怒涛・余部 (HDV)
前田茂夫 9分
16. 認知症? (HDV)
安居利次 8分
17. 新緑と紅葉の五色沼 (HDV)
有村 博 9分
18. かげろい (HDV)
関 剛 7分
以上

開 場：12時30分

上 映：13時～

終映予定：16時40分頃

★出品者は11時までに集合、お手伝いを

受付、照明係、観客案内（遅れてきた人を懐中電灯で足元を照らし案内）等々。
作品選考過程について

会長 合原一夫

秋のOMC映像フェスティバルの作品選考時期が近づくと、毎年頭の痛い思いがします。力作が多くなりますとどの作品を入れて、どれを落とすか頭を悩ますのです。

他の中小クラブや地方都市では、公開映写会をやるうにも良い作品が集まらないと聞きます。その点、OMCは作品が多過ぎて選ぶのに苦労する、とは、考えてみればうれしい悲鳴であり、ぜいたくな悩みかも知れません。

今年も、毎月の例会上映作品を安居さんにDVDにして貰っているので、私が凡そ1週間かけて全作品を見て一定の評価基準（撮影、構成、編集、録音各5段階評価）で採点 作者別に高得点者より順番にリストアップして作品を並べます。このリストを元に、幹事会（世話役の中で日本アマチュア映像作家連盟会員である人）にかけてプログラムを作るわけです。この会議ではDVDを用意して、確認したい作品や、選考に迷う作品は、映像を皆で見て合意の上で決めていきます。

全体の上映正味時間を2時間30分程度と予定していますので、16番目から20番目位の人がボーダーラインとして選考に苦労するわけです。この辺りの作品は10分を過ぎる長めの作品は敬遠されがちです。新人の方はできるだけ入れるようにしていますが、発表会のレベルを考えると躊躇せざるを得ないのです。今年の作品レベルは全国コン発表会と同レベルではないかと自負しています。

◆公開映写会は最高の明るさで

10/7日の秋のOMC公開映写会は最高の明るさの映写になります。HDV映像への取組みは、OMCは日本でどこのクラブにも負けないと自負していますが、これまでの一番の問題点は大映写する場合の明るさの不足でした。DVでは4000～

5000ANSI ルーメンの明るいプロジェクターを使って大映写をしてきました。しかし、今まで HDV になると、大映写に堪えるだけの明るさを備えたプロジェクターが民生用にはなく、せいぜい 1600 ~ 2400ANSI ルーメンがアマチュアが手に出来る明るさの限界でした。

昨年の OMC 公開映写会でもこのクラスのプロジェクターで映写しました。4.8m × 2.7m の大型スクリーンに映写して何とか鑑賞できる限界の明るさでした。もっと明るいプロジェクターが欲しいと、会員皆が念願していました。

そこへ朗報が飛び込みました。黒田会員が業務用の 10000ANSI ルーメンのプロジェクターを公開映写会に提供して下さるとの有難いお話です。そのプロジェクターは Panasonic の業務用 TH-DW10000 という、3DLP、4 灯式の 10000 ルーメンの明るさがあるそうです。恐らく、ランプが 4 つも装備されたこれだけ明るいプロジェクターを使ってアマチュアが公開映写会をするのは、日本初、いや世界初かもしれません。OMC をはじめとする大阪のビデオクラブは HDV への取組みが他所より早くスタートし広く会員に浸透しました。悩みであった大映写の明るさも TH-DW10000 を用いることにより一挙に解消することと思いません。ビデオサロン誌も取材に来てくださるとのことです。

8 月例会のレポート

8 月の例会は 25 日の午後 6 時より何時もの例会場で開催しました。司会、安居さん、書記、有村さん、デッキ係に増池さん、江村さん、河合さん、受付兼照明係を渡辺さん、奥さんの担当で進行しました。

◆出席者：有村、天草、石垣、井上、江村、岡本、奥、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、田中、玉井、鉄具、錦、華岡、藤原、前田、増池、松本、宮崎、森、森口、森下、森田、安居、山本、吉岡、渡辺（敬称略）
31 人と作品本数 17 本でした。

◆上映作品（今月の記録と講評担当：有村博さん）

1) 西梅田キャンドルナイト

増池 茂さん 5分00秒

今年の 6 月に西梅田の街角で行われたイベントを記録されました。蝋燭の灯によって色々な容器が美しく浮かび上がっていました。見終わって皆さんから「最初に大勢の人達が並んでいたのは何で？」とか「白い服装の女性は何をしていたの？」とか質問が出ましたがこれらの答えが何らかの形で作品の中で説明されていたら、もっと良かったのではないかと思います。

2) 鎮魂の島は今

合原一夫さん 9分55秒

この 7 月にツアーで行かれたのは、オーストラリアの北部海域にある、世界の秘境の一つパプア・ニューギニアでした。無数の島の中の一つを訪れた合原さん夫妻がそこで見たものは 60 数年前の日米の激戦地の跡でした。赤く錆びた速射砲や戦車、塹壕、忠霊碑など。今ではのどかに暮す原住民の人達が意外に親日的だったのが救いだったようです。あまり知られていない土地を見事に描いておられました。

3) ふれあい祭り

石垣禎章さん 9分00秒

毎年 5 月に行われている東大阪市の市民のお祭りを取材されました。前夜祭の花火大会から始まり祭当日の各種団体の行進を軽快な音楽をバックに見事に描いておられます。よく行進物は作品にするのが難しいと言われますが、適当に現場音を残しながらバックに歌を交えてアップ主体の画を繋ぐ手法が見事に成功しておられます。市民の皆さんもこれを見たら大喜びすることでしょう。

4) 科長神社夏まつり (W)

紙本 勝さん 8分20秒

大阪府の太子町にある神社の祭りを取材されました。5 台のだんじりが宮入りして勇壮に動き回るのを近くからアップ主体にね

らって見事です。楽しそうな男女の若者たちの表情が色とりどりの紙吹雪の舞う中に描かれます。お祭り撮影名人の紙本さんには珍しいノンナレーションでしたが、迫力のある好作品でした。

5) 鯖街道天高し (W)

森口吉正さん 9分20秒

福井県小浜市が起点の若狭街道は別名鯖街道と言うそうです。ここを車で走って宿場町やお寺などを紹介されながら滋賀県を走り京都府との境の花折峠までで作品が終ります。沿道各地には鯖街道の標識や、鯖寿司の看板のあるお店があり、今でこそアスファルトの自動車道路になっていますが、昔の面影を各所に見ることが出来ます。何時ものような森口さんの流暢なナレーションと共に珍しい風景を堪能させて頂きました。

6) 天の川七夕祭り (W)

鉄具嘉夫さん 9分00秒

大阪府交野市周辺には星にまつわる伝説が数多く残されているそうです。市内を流れる天野川が実在し、近くで行われた祭を夜にかけて撮影し紹介しておられます。手作りの紙灯籠や竹灯籠の制作風景があり、学生吹奏楽の演奏を経て夜になります。灯がともされて色々と演奏される中、幻想的な雰囲気描かれます。楽しい作品でした。

7) JR京都駅点描 (HDV)

奥 宏さん 4分42秒

京都の駅は独特な形に作り上げられています。それをあらゆる角度から撮影されて作品に仕上げておられます。階上、階下、歩いてみると中々好い画角があるものですね。特に京都の町並みに似せて碁盤目の窓枠が特徴だとか、感心しました。毎度あちらこちらと歩いて取材され、紹介される努力に敬意を表したいと思いました。

8) クライストチャーチ植物園 (HDV)

井上勝彦さん 9分43秒

井上さんにお聞きますと、毎年のように

に花の咲く1月、2月頃にニュージーランドに行かれるそうです。今回も今年の正月に行かれてお得意のスタビライザー撮影を交えて南島最大の都市の公園にある植物園を主体に描いておられます。移動撮影に花のアップを巧みに組み合わせて壮大な園内を撮影されています。最初に都市、公園などの紹介が奥さんのナレーションで出ましたので、最後の締括りとしてその感想などを語られるとより良くなるのでは、といったご意見がありました。

9) 目指すは喜光寺 (HDV)

有村 博さん 5分00秒

奈良県の近鉄尼ヶ辻駅から歩いて垂仁天皇陵、菅原神社を経て蓮の美しいお寺を訪ねて撮影しました。三脚使用でお金を取られたナレーションで反響があったようですが、今から思えば、沢山使用しない三脚を預けている現場が撮影出来なかったのが残念です。

10) 夏越祭り (HDV)

渡辺雄史さん 12分40秒

近年観光地としても有名になった兵庫県室津漁港に泊りがけの旅をされて土地の祭を撮影してこられました。宵祭の後、本番は朝5時からの取材です。手作りの太鼓台を担いで若者たちが町中を練り歩きます。そして夜の花火で終わります。丁寧に上手に撮っておられて良かったのですが、同じような動きが多いのももう少し短くしたらより良くなるのではないのでしょうか。

11) 東山花灯路 (HDV)

江村一郎さん 8分00秒

舞台掛けの舞妓さんの踊りで始まり、終るという構成で京都清水寺から高台寺にかけての夜の風情を描いておられます。男女の太鼓の共演や若い女性の花傘回し、それに現代風な踊りなどがあって動と静を表現しておられるようです。何時もの江村さん独特のドアップの映像が夜のせいでしょうか、見られなかったのが淋しく感じられました。それと高台寺の法被を着た狐の嫁入

り行列のいわれを教えて欲しいように思いました。

12) カッパドキア (HDV)

山本正夢さん 6分50秒

素晴らしい熱気球の映像があって、トルコの有名な観光地の全景が紹介されます。広大な地下都市と、外の風景を巧く噛み合わせて編集されているので実にテンポが良く見易くなっています。恐らく観光旅行ではこんな撮影は出来ないと思われます。素晴らしい音楽と相俟って気持ちよく拝見出来た見事な作品でした。

13) SL山口号 (試作) (HDV)

山口幸代さん 10分45秒

鹿児島県にお住まいの山口さんが山口県を走る蒸気機関車をこんなに詳細に撮影されているのに驚きました。何回通って作られたのでしょうか。それでまだ試作段階だそうです。本当に汽車が好きでないと、これだけ細かく機関車の細部のアップや機関士の動作、車内の描写など出来ないでしょう。トンネルを抜けて走ってくる機関車のド・アップ、迫力ありました。もう少し外からの撮影があれば完全です、とのご意見がありました。素人の私は今のままでも立派な作品のように思いました。

14) おこしや祭 (HDV)

吉岡貞夫さん 9分50秒

西宮神社は戎さんの総本家、一番早い6月に夏祭が行われるそうです。居眠りしている戎さんを起したのが名前の起源とか。浴衣姿の女子大生がびわ娘として参加します。神事が終り彼女たちによってお供えのびわが参列者に配られます。折悪しく雨で配所への行進は中止となり阪神電車高架下の百貨店で盛大に行列が披露されました。恐らく腕章を巻いての撮影でしょう。近くからのアップ多用で若い女性を撮りまくった楽しい作品でした。

15) ススキ提灯舞う (HDV)

河合源七郎さん 5分47秒

大阪府との境にある葛城山の奈良県側にある神社の夏祭を取材されました。秋田の竿頭祭と同じような十個の提灯のついた竿を持った若衆が境内で走り、振り回しながら色々な芸を披露してくれます。雨の中テントの内で鳴らす太鼓の音も勇壮です。夏祭も所変われば色々なものがあるようです。楽しく拝見しました。

16) 首長族の集落 (HDV)

森田光春さん 4分45秒

1年の半分はタイで暮らすという森田さん、今回は北部の古都チェンマイの郊外に最近出来た少数民族の集落を訪ねて撮影しておられます。隣のミャンマーの軍事政権に追われて移り住んだそうで、男たちは殆ど出稼ぎで居らず集落には母子家族が大半のようです。金属の首輪を子供も巻いているので首が長く見えますが、簡単に取り外しが出来るそうで夜には外して寝ているようです。珍しい風習の映像でした。

17) 紅蓮の炎 (HDV)

黒田敏彦さん 9分57秒

毎年3月の初めに奈良東大寺二月堂で行われる「お水取り」行事、これが終ると奈良に春が来ると言われる全国的にも有名な行事ですが、今までは外の観客席からの映像は数多く大勢のカメラマンが見せてくれました。所がこの作品はその堂内での仏事がきめ細かく描かれています。しかも懇切丁寧なナレーションでお坊さん達が何をしているのかが判りますので驚きです。最終日の十本の箆松明の勢揃いで終ります。見事な作品でした。

500号記念寄稿文集(2)

元OMC会員 野村公威

合原一夫様

OMC会報500号記念お送りいただき拝見いたしました。500号とは気の遠くなる会報ですね。過去を遡れば、大阪南支

部誕生の昭和三十二年・支部誕生の発会通知葉書（竹本顧問の手書ガリ版）がいわば第1号で、当時若かった私は保存など意識がなく、後年葉書から見開き会報になってから保存するようになりました。小倉氏が四代会長になって、南支部時代の古い資料を貸して欲しいと頼まれ、保存した会報・映写会プログラム等をお渡しいたしました。今なら編集印刷して小冊子にできるのに……亡くなられた後、保存されていないと分かり残念でした。

大阪南支部の誕生は昭和三十二年ですが、その祖先は竹本正光顧問のお話では、昭和十年に大阪アマチュア映画作家集団としてグループ活動をしていたそうです。何年に撮影されたのか分かりませんが、沖中さんや札幌さん、岡本さんらがドラマに出演して、竹本さんがカメラを回したフィルムを何度か見ました。大先輩方々の若々しい意欲が感じられました。大阪作家集団も戦後復活してから、玄光社の小型映画友の会・全国8番目の支部に登録されて、大阪で最初の8ミリ映画支部として誕生した名門支部です。

初代支部長・前川一夫氏を経て、三代支部長川畑健二氏のとき、会場移転に頭を悩ましていた時期があります。フィルムがレギュラタイプからスーパー・シングルタイプに変わってブームになる前で、小倉宝蔵氏が入会され、会場なら教育会館が半額で借りられると勧められました。以後定例会場になりましたが、新会場で心機一転、会の名称も大阪南支部から大阪ムービーサークル「OMC」に改称してはと提案。渋られる竹本顧問を説得し、了解を得て「OMC」として再出発するきっかけになりました。

8ミリ映画からビデオへと転換期の苦渋混乱を乗り越えて、OMCも五代目会長の合原一夫氏に伝統は受け継がれてきました。永い伝統とは創始者の竹本顧問や歴代会長あつての伝統ですが、会長を支える幹事世話役の陰の協力が未来に繋がる支えだと思います。この記念すべき500号会報がさらなるOMCの発展に向けてのスター

ラインならんことを期待いたします。

南支部誕生時の会員さんも多くの方が故人となられました。また消息の分からぬ人もおられます。過ぎ去った五十年の歳月が、何と遠い彼方に押しやられ、懐かしくとも亡くなられた先輩の方々を思うと、虚しい過去の映像となって、陽炎のように消えていくようです。感傷して過去を振り返らず、未来に向かって現役の会長としてOMCのために頑張ってください。陰ながら応援しております。

野村 祥

※野村公威様は前々会長、川畑健二会長時代に大変ご活躍されたOB会員です。アニメーション制作がお得意の分野で数多くの異色作品を発表され会員を楽しませてくれました。

500号記念によせて

岡本至弘

OMCニュース500号発行おめでとうございます。簡単に500号といいますが、毎月発行したとしても、40年以上の歴史がながれたことになります。よくぞまあここまで、映像文化の変遷を伝えてきたことと思います。私が初めて手にしたのが、1984年2月号（221号）でしたので、現代までに280号の会報を読んできたことになります。

入会当時は8ミリフィルムの全盛時代で会長さんが川畑健二さん、それから小倉宝蔵さんにそして現会長の合原さんで3人の会長さんにご指導いただいたことになります。

OMC入会前はスタジオエイト（横山勇会長）に1982年ごろからお世話になっていたので映像にかかわって4半世紀の歴史がながれたことになります。記録によれば1964年に創刊号が発行されたとかその歴史に驚きます。

300号が1990年11月号、この時は小倉会長さんで公開映写会を日経新聞が大きく取り上げたというニュースが掲載さ

れています。400号が1999年4月号でこの時は現会長合原さんがOMCは創立60年の年かという記事が載っています。この間、映像文化の発展は急速な進歩をとげてきました。現在ではハイビジョン映像が主流をしめてきました。

OMCでは40名を越える会員数になりいろいろなジャンルの作品を拝見させていただけるようになってきました。また作品のレベルも随分向上してきたように思います。しかしながら手軽に撮影、編集できることから、重みのある作品がすくなくなつたような気もしますが、撮りたいものを撮り、作りたいものをつくって、楽しい作品づくりに励みたいものです。

何人かのベテラン作家がこの世を去りましたが、残された私たちも次の世代へと引き継いでいきたいものです。

OMCニュース500号発行をお祝いし、OMCの益々の発展を祈念します。

8ミリフィルムからハイビジョンまで

前田茂夫

OMCへ入れて頂いたのは1974年12月(昭和49)からです。以来33年の長きに亘ってお世話になってきました。当時は8ミリフィルムの全盛時代でコダクローム40の素晴らしい発色に満足していました。時代が下がるにつれて8ミリビデオ、VHS、C-VHS、S-VHS、Hi8、DVへとビデオも進歩して来ました。1993年10月(平成5年)には、コダックが日本国内での現像を中止しました。同じくフジフィルムもサイレント・シングル8フィルムへのマグネストライプ加工を中止しました。コダックの国内現像中止は、コダック党の多いOMC会員にとって大ショックでした。折角撮影してもハワイへの現像送りで、出来上がりまで2ヶ月近くはとて待てないということで、フィルム映像をあきらめ、ビデオ映像へと大多数の会員が転向していきました。

平成6年1月例会からは、ついに8ミリフィルムとビデオを併用し、例会が運営されることになりました。この前後がOMCにとって、一番苦しい時期でした。会員減

により会の苦しい台所を救うために、会員有志で寄付を出したりしました。また会費が年間2万円になっていた。会員減は当然の結果として、例会の新作品が減少し、旧作リバイバル上映が多くなっていた。そのため会の活動も低調で、却って会員数が減るという悪循環に陥っていました。

このような凋落傾向を食い止めるために、1996年1月(平成8年)に心機一転会場を民間のホテルから、大阪市立あべの市民学習センターへ移し会場費の節約を図りました。同時に8ミリフィルムと決別し、ビデオ映像に一本化することとなりました。会の名称は、今後は二度とフィルムを使用することはないので、“ムービー”の文字はそぐわないのではという意見もありましたが、60年の伝統の重みを考え「大阪ムービーサークル」をそのまま引き継ぐことになりました。

ビデオ方式は、1995年(平成7年)に新規格DVが発表され、今までのアナログ8ミリビデオとは違った美しい映像に堪能したものでした。このDVの時代は長く続きましたが、2003年(平成15年)春にビクターが発売したハイビジョンカメラ(GR-HD1)の精細な美しさには度肝を抜かれました。BS-HIでハイビジョンの綺麗さは判っていても、あれは放送局用でアマチュアが手に出来るのは「いつのことやら?」という雰囲気だったように思います。そこへアマチュア用ハイビジョンカメラが登場したので、多くのファンは驚いたものでした。私も是非写して見たいという願望が高まりましたが、今みたいに手軽に買える価格ではなく指を咥えて見ていました。

そこへ朗報が入りました。H15/夏、ビデオサロン誌がハイビジョン映像をインターネットで配信できないか、そのテストをやって欲しいという依頼です。喜んでテストさせてもらい、それらのテスト映像を例会に持参して見ていただいたことでハイビジョンの素晴らしさを会員諸氏に判っていただきました。

H15年当時はハイビジョン映像を配信しているサイトは他なく、私の実験サイトが

日本で初めてのことでありました。H16年になって幾つか登場してきました。ハイビジョンの映像配信は、超高速の光ファイバー回線、大容量のサーバの普及が大前提になります。H17年からH18にかけて、インターネットインフラが大変整備されFTTHが大躍進してきました。同時に個人のハイビジョン配信サイトが数多く登場してきました。現在は多くの個人のサイトからハイビジョン映像が配信されています。インターネットによる映像発展にとって好ましいことですが、反面困った問題も持ち上がって来ました。ハイビジョン映像の配信はインターネットに大きな負荷をかけるということで政府が中心になって規制をかけようとする動きが出てきたことです。新聞情報によると、年内にも規制案が策定されそうです。この方向に呼応してプロバイダー等のキャリア業者も何らかの規制をかける方向に動くことは間違いないことでしょう。(H19.6.21日経、サンケイ両紙に総務省懇談会からの指針が公表された。)

さらに、動画ダウンローダーというソフトウェアが拡がっていることも問題です。このソフトウェアは動画を配信しているサイトを指定すると、その中にあるすべての動画ファイルを自動的に探し出して、片っ端から自動的にダウンロードするというサーバ側にとって非常にやっかいな代物です。このソフトでアクセスされると、自動的にダウンロードを開始され次から次へとそのサイトの回線を占有されてしまうことです。つまり動画ダウンローダーによりアクセスがなされると、他の善意の第三者が見ようとしても回線が満杯状態で見られないという困ったことになります。

また、ユーチューブ等商業動画サイトが数多く動画配信していること、更にファイル交換ソフト、ウイニーによる動画のダウンロードの蔓延から、インターネット回線が全国的に窮屈になってきています。そのため政府による規制が実施されようとしているのですが、本当に困った問題が起こっています。

前述のような経緯があって、H15/秋 OMC

は日本中の何処のクラブより早くハイビジョン映像をネット配信し、例会で楽しみ、会員各位もそれに刺激され積極的に導入されたからこそ、今のようにHDVが例会作品の大多数を占めることになったものと思います。ビクター GR-HD1はクセがあって使いにくいと高価であったので普及はしませんでした。2005年7月(平成17年)にSONYからHDR-HC1が発表されると、私たちの身近な存在になりました。価格も合理的で使いやすく、多くのOMC会員が購入し現在に至っています。HC1は今では生産中止ですが、数ある大衆機の中で一番使いやすくマニア好みの良いカメラだと思います。私もこのHC1を評価しています。

ハイビジョン規格もDVテープを使用するHDV方式(MPEG2-TS)から、最近ではテープを使わないAVC-HD(MPEG4-AVC)なる方式が発売され、録画メディアもDVD、HDD、メモリーカード、BDなど多岐にわたって発売され、正直いってエンドユーザーはどの方式のカメラを買えばいいのかが選択が難しい時代になりました。

私見を申し上げますと、映像制作を趣味にする私たちは、編集の容易なHDVで楽しむべきであろうと思います。将来の本命は、メモリーカードを使うAVC-HDであろうと、新聞、雑誌等書いていますが、編集の困難さは永久について廻ると思います。CPUが超高速になり、高速処理の出来るアプリケーションが開発されれば、AVC-HDでもストレスなくすらすら編集出来るとあります。確かにその通りとは思いますが、超高速PCが出来たら、HDVはさらに早く処理できて、今のDVを扱う感覚になるでしょう。つまり、MPEG2とMPEG4との圧縮率の大幅な違いによる処理の困難さは永久に縮まらず、永久について廻るからです。弟は決して兄の年齢を追い越せないのと同じ理屈だと思います。

と、ということで私はDVテープが販売されている間は、HDVを楽しみたいと思いますが、皆さんは如何にお考えですか？